

東京都子供・子育て会議(第9回、10回、11回)
中間年の見直し等に関連した主な御意見

1 中間年の見直しの内容に関連する項目

以下の御意見を、中間年の見直しの参考にさせていただきました。

	御意見	対応状況
1	策定中の第1期障害児福祉計画の内容について、子供・子育て計画に反映するの か。	第3章>目標4(5)障害児施策の充実、 第4章>10 障害児支援、第5章>目標を掲 げている取組 に反映して整合を図って います。
2	子供の生活実態調査の概要について、 剥奪指標も掲載されると良いと思う。	図表88、89に掲載いたしました。

2 今後の検討の方向性や、施策展開、事業の内容に関連する項目

以下の御意見は、日頃からの事業の実施の参考にさせていただくとともに、次期計画
の検討においても参考とさせていただきます。

1	東京都の0歳から14歳の年少人口とその親の世代は、転出超過になっている。子育 ての面からどうグランドデザインを考えていくのかということ議論する場が作ら れると良いと思う。
2	待機児童問題への対応等の対症療法も大事だが、それ以上に、東京都の子供・子 育てに関するグランドデザインを描いていくことが、次期計画の検討のためには大 事。
3	子育ては国全体、社会全体でやるものだが、預かり場所を増やしたり、預かる時 間を増やしても、女性が子供を産もうという気持ちにはならない。子供が傍らにい ると、こんなに生活が豊かになる、子供のおかげで幸せになっている、という実感 が必要。市民性をどうやってみんなで高めていったらよいか、ということも、考 えてほしい。
4	社会全体で子供と子育て家庭を支援するという理念はまだまだ浸透しておらず、 これからも機運を作っていかなければならない。
5	長時間子供を預かることが本当に良いのかどうか、疑問に思うこともある。一生 の中の子育て時期のひとつを、ゆとりを持って子育て出来る社会になったら良い と思う。
6	施策の中に子供の視点を絶対に忘れないでほしい。大人の思いや親の思いで施策 が作られていくことがあるが、子供を中心に、子供にとってはどうなのかというこ とをこれからも考えていってほしいと思う。

7	<p>「森と自然を活用した保育推進事業」「こころとからだを育てる活動体験（野外体験・里山体験）の活動拠点づくり」などの事業はとても大事。子供の視点だけでなく、親もリフレッシュが必要なので、親も含めた視点も重要。</p>
8	<p>国が検討している幼児教育の無償化が乳幼児期の教育・保育に与える影響を次期計画の検討では議論していかなければならない。</p>
9	<p>国で新たな社会的養育のあり方に向けた家庭養育の推進計画策定指針の改定が進められているが、こうした動向も踏まえて計画をブラッシュアップしてほしい。</p>
10	<p>障害児福祉計画、社会的養護計画、子供・子育て支援総合計画の統合は十分ではない。次期計画に向けての大きな課題だと思う。 特定教育保育施設から障害を持った子供が排除されないことに加え、児童発達支援センターが特定教育保育施設に子供を通所できるようにした場合には、児童発達支援センターに財政的なインセンティブがあるような制度が必要だと思う。 社会的養護においても、家族再統合を進めることによって、施設の財政的な経営が難しくなるようなことが起こらないよう、制度の整備が必要。</p>
11	<p>子育てと介護等のダブルケアの問題を解消していくためには、共生型サービスやワンストップサービスを作っていくことが大事。</p>
12	<p>父親が子育てに参画できるよう、意識改革や働き方改革を行い、父親が子育てに参加しやすいような社会を作りたい。</p>
13	<p>自治体間格差が発生しないような取り組みが必要。</p>
14	<p>子供や子育て家庭をサポートする事業について、保護者や事業者がそのサービスの内容を理解しにくい場合がある。啓発や、周知等の仕方を具体的に考えていくことが必要。</p>
15	<p>「目標1地域における妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援の仕組みづくり」について、男性にアプローチしていく方策も具体化していく視点を盛り込んでほしい。</p>
16	<p>ファミリー・サポート・センター事業等について、実施団体が自治体と連携して、力をつけていくことが大事。</p>
17	<p>就学前教育と小学校教育との連携は今後の課題。保育園、幼稚園、こども園、小学校の先生も含めて、円滑な接続を考えていくことが大事。</p>
18	<p>小規模保育の連携施設の確保する案として、幼稚園の認定こども園化や、3歳児以降を対象とする施設の設置等が考えられるが、公定価格では不足する財源の都と基礎自治体の負担の制度設計や、幼稚園が認定こども園化するための移行支援の体制強化が必要になってくる。</p>
19	<p>待機児童問題がある一方、少子化の影響を受けて、定員に空きがあるケースもあるので、双方の対応を考えてほしい。</p>

20	東京の文化や芸術に触れる直接体験を充実させていくことが必要。乳幼児期からもっと、自然環境や、地域の文化、人材に触れる体験が必要。東京には、美術館、博物館、運動施設等が多いので、連携して、子供たちの体験活動を充実させてほしい。特に乳幼児期は重要。子供たちの直接的・具体的な体験活動を内容として深められると良いと思う。
21	学童クラブだけではなく、児童館や、プレーパーク、子供食堂等の社会資源も含めた放課後の居場所や、遊びの復権に向けた検討が必要。
22	虐待の防止について、地域で見守っていく体制は整ってきた。一方、子供が泣いているとすぐ警察に通報される場合もあり、保護者は精神的な負担が大きい。特に、発達障害がある低年齢児を持つ母親は、子供家庭支援センターや、児童相談所や、施設だけではなく、さらに重層的にサポートできることを考えていったほうが良い。
23	子供たちの居場所を分けないう、子供・子育て支援制度の中での障害児の受入れの拡大を考えていかないといけない。
24	子供の貧困について地域差が大きい。各自治体が独自施策を実施するときに独自の財源をどれくらい投入できるかという問題がある。包括補助事業や財政調整制度で算定する等により、サポートしてほしい。
25	DV問題について学校教育や家庭教育の中でも学ぶ体制を考えていくべきだと思う。
26	障害を持った子供たちの地域移行の機能を持った児童発達支援センターを増やしていくことが必要。
27	共生社会を実現する上で、保育園、幼稚園での障害児保育や特別支援教育の普及が必要。そのために具体的な施策があると良い。
28	保育の質として、研修の他に、OJTが大事。園長先生をリタイアした方など、優れた人材の背中を見せることが若い保育士の教育に必要だと思う。
29	保育所を増設する場合においても、人材の確保が重要で、特に中堅以上の職員の確保が大事。施設長や、施設長を束ねる、現場を知っていてマネジメントできる人材が確保できるかが、保育所開設のキーポイント。施設長を目指す方向けのマネジメントの研修制度があると良いと思う。
30	保育の質は子供の育ちに対して大事なものであるため、数値化できる評価がつけにくくても、投資をおろそかにしてはいけない。 保育の質の確保につながるのには、保育者の質の確保。働きに対する対価や満足感が得られるようにすることで、離職せず、キャリアを積んで行けるような環境を確保することが重要。保育者の質の確保のために研修は重要で、特に園長、設置者、管理者向けの研修や研究がよく機能している保育所では、保育者の離職率が低い。大事なところに予算をかけているかどうか、その評価の仕方を考えていく必要がある。
31	学校と家庭、地域を結ぶスクールソーシャルワーカーが果たす役割は大きいので、さらなる質の向上が必要。小学校にも配置が必要。